



# 自然遊学館 だより

**2010 AUTUMN**

**No.57**



■2010.10.29 発行 貝塚市立自然遊学館

◆行事レポート

大潮の夜の海探検 ..... 1

自然生態園バッタ調べと  
市民の森の鳴く虫 ..... 2

近木川河口の生きものと遊ぼう！ ..... 3

【参加者の感想】 ..... 5

夏休み自由研究相談 2010 ..... 6

◆生きものよみもの

オオスナゴミムシダマシ ..... 6

カミキリムシはなぜ触角が長いのか？ ..... 7

◆泉州生きもの歳時記

ヒモイカリナマコツマミガイの  
近木川河口での記録 ..... 9

◆館長コーナー

秋 6. イノシシ ..... 10

◆調査速報

和泉葛城山昆虫調査  
(2010年7月～9月) ..... 13

◆投稿

カンムリセスジゲンゴロウ ..... 15

ハネビロトンボ ..... 15

◆学芸員実習生の調べた貝塚の自然 ..... 17

◆寄贈標本の紹介 ..... 17

◆スタッフ日誌 ..... 21

表紙の写真: ムササビ。英語の flying squirrel は、「飛ぶリス」という意味。皮膜を広げて滑空する。



## ◆行事レポート

### 大潮の夜の海探検

場所：近木川河口・二色の浜

日時：2010年7月25日（日）16:00～20:30

参加者 50人

今年の夏は例年に比べ、記録的な猛暑が続く中での開催でしたが、夕方から夜にかけてのイベントであり、涼しい浜風も吹くの中で行われました。

本館前に集合して頂きました参加者は、16時に二色の浜に向け、出発しました。現地でスタッフ紹介や行事の流れを説明した後、2班に分かれて、まずは**カゴ網の仕掛け**です。餌として魚のアラをカゴ網の中に入れて、突堤沿いの海中に沈めました。

17時からは**ミニ地曳網**です。スタッフ3人で網を50m程沖出しした後、参加者全員で力を合わせてゆっくりとロープを引っ張りました。掛かった魚は予想していたよりも少なかったため、もう一回、もう一回と計3回の網入れを行いました。右の表の通り、魚は18匹しか捕れなかった中で、注目が集まったのはロウニンアジの幼魚でした。



夕暮れの地曳網

平成22年7月25日（地曳網 3回分）

魚類	スズキ（幼魚）	14
	ロウニンアジ（幼魚）	1
	ボラ（幼魚）	2
	クサフグ	1
甲殻類	ケフサイソガニ	24

18時の夕食時には講師の鍋島先生（大阪府水産技術センター）も駆けつけて下さいました。休憩をはさんで、次は**カゴ網の引き揚げ**です。先ほど仕掛けたカゴ網4個に加え、お昼から仕掛けておいたカゴ網6個の計10個のカゴ網を2班に分かれて引き揚げていきました。たくさん捕れると予想されたイシガニは1匹だけで、クサフグやマダコなどが目立っていました。各カゴ網に掛かった生物を下図に記します。（岸から沖に向かって番号を付けています。）

【二色浜側】	突堤	【近木川河口側】
⑤ クサフグ 34		⑤ マダコ ♂1、♀1
④ なし		④ クサフグ 4
③ コシダカガンガラ 1		③ クサフグ1、ムギガイ14
② アラムシロ 8		② クサフグ8
① イシガニ ♀1		① イトマキヒトデ1

日が沈んでからは海面にライトを照らして、**プランクトン採集**です。光に集まってきた浮遊生物をプランクトンネットをひいて採集しました。ケンミジンコ類や貝形類、夜光虫など微小な生物です。実体顕微鏡映写装置を使って、スクリーンに大きく映し出し、鍋島先生に解説して頂いたため、姿かたちや、こういった生物なのかがよくわかりました。

最後に今日の観察会を通じての質問タイ

ム。海の生きものについて興味がかきたてられたようで、子供たちからの質問が延々と尽きない中でしたが、予定の20時半を過ぎましたので終了し、現地解散となりました。



プランクトン観察ライブ

(山田 浩二)

になって行っている生態園作業日に合わせて、バッタの原っぱでバッタ調べ、市民の森で鳴く虫の声を聞く会を開きました。講師には、今年も日本直翅類学会の森康貴さんにお越しいただきました。

バッタ調べは午後4時からで、バッタの原っぱで参加者が20分間採集を行い(図1)、種類ごとに分けて個体数を数え(表1)、各種の説明を森先生にさせていただきました。



図1. バッタの原っぱで採集

## 自然生態園バッタ調べと 市民の森の鳴く虫 2010

場所：貝塚市二色市民の森

日時：2010年9月11日 16:00～20:30

参加者：バッタ調べ29人、鳴く虫32人

貝塚市の自然の再生を目指して、市民の森の一面につくられた自然生態園には、トンボの池、バッタの原っぱ、ドンダリの森、海浜植物ブロックがあります。いずれもつくられてから10年以上経ち、トンボの池やバッタの原っぱで行われてきた生きもの調べのデータもかなり蓄積されてきました。

今年も自然遊学館わくわくクラブが中心

表1. 自然生態園バッタの原っぱのバッタ調べ

2010年9月11日 16:20～16:40 24名

暑さと採り尽くし具合から20分に短縮

同定：森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギリス		7
	ホシササキリ	7	2
ツユムシ科	ツユムシ		2
コオロギ科	エンマコオロギ	29	1
	ハラオカメコオロギ	1	
オンブバッタ科	オンブバッタ	5	
バッタ科	ショウリョウバッタ	7	
	マダラバッタ	4	3

ほか、チョウセンカマキリ幼虫1を採集。

8種68個体のバッタ目昆虫が採集されましたが、雨中の採集だった2009年の8種61個体は別にして、2007年の12種58個体、2008年の15種66個体と比べて、種数が少ないという結果に終わりました。2008年の結果と比べると、ケラ、シバズ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、イボバッタなど草丈の低い草むらを好む種類が採集されなかった印象を持ちました。バッタの原っぱの草丈が高くなったことと、周りの芝生が猛暑でへたり気味なのが影響したのかもしれません。

夕食後、午後7時から鳴く虫の声を聞く会です。森先生に標本を使って主な種類の説明を受けてから、市民の森に行きました。樹上ではアオマツムシやカネタタキが、草上ではヒロバネカントンが、地面からはエンマコオロギやハラオカメコオロギの鳴き声がよく聞こえました。結局、11種類の鳴き声を聞くことができました(表2)。

前日(9月10日)の下見では、市民の森の範囲を越えて調査を行い、脇浜潮騒橋の右岸側にある芝生の丘で、キリギリスとタンボコオロギの鳴き声を聞きました(行事当日も芝生の丘まで行きましたが、あいにく両種とも鳴き声は聞こえませんでした)。秋の鳴く虫の代表であるマツムシは、二色の浜の北端と南端、および埋立島(二色南町)の各所で鳴いていました。でも、その間にある市民の森にはいません。マツムシが分布を市民の森に広げるには、今のところ、近木川と二色運河が障壁になっているのだと思います。

最後に2008年の行事で初めて確認されたタイワンエンマコオロギですが、春から継続して調査しているにもかかわらず、埋立島で成虫がほんの数個体が確認されただけで、定着しているとは言い難い状況にあります。

(岩崎 拓)

表2. 市民の森の鳴く虫

2010年9月11日 19:20~20:20

同定: 森 康貴

科	種	姿	鳴き声
キリギリス科	ホシササキリ		○
	ウスイロササキリ		○
コオロギ科	エンマコオロギ		○
	ハラオカメコオロギ		○
	ミツカドコオロギ		○
	ツツレサセコオロギ		○
ヒバリモドキ科	シバズ		○
	マダラスズ		○
マツムシ科	アオマツムシ	○	○
	ヒロバネカントン	○	○
カネタタキ科	カネタタキ		○

ほか、ツユムシ、トノサマバッタ、オンブバッタを採集。

## 近木川河口の生きものと遊ぼう!

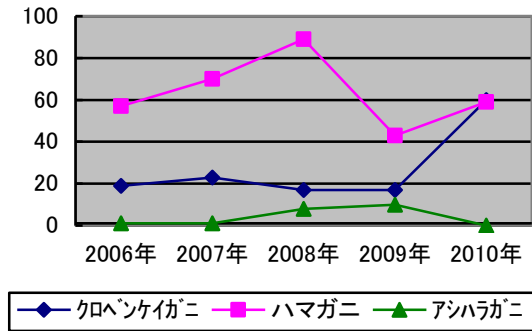
場所: 近木川河口

日時: 2010年9月20日(祝) 10:00~15:00

参加者 56人

近木川河口に集合し、午前中はヨシ原にすむカニを釣ったり、干潟にすむハクセンシオマネキの観察を行いました。カニ釣りは、例年通りタクアンを餌にして、40分間で釣れたカニの種類、雌雄、甲幅の記録を行いました。参加者全体の釣果は、クロベンケイガニ 60匹、ハマガニ 59匹、アカテ

ガニ2匹の計121匹でした。ここ5年間で、常にトップの採集匹数の座にあったハマガニが、クロベンケイガニに首位の座を奪われたのははじめ、昨年10匹釣れたアシハラガニが今年は0匹など、釣られたカニの種組成に変化がみられました。下のグラフに過去5年間の釣り上げられた3種のカニの個体数の変化を示します。



近木川河口で釣られたカニ3種の個体数変化

各種、大物を釣った上位3人の発表を行った後、計測の終えたカニは元のヨシ原へ逃がしてやりました。また、残念なことに、この場所で1998年から生育を確認していたイセウキヤガラ群落がみられなくなり、代わってヒメガマが生えていました。



近木川河口でのカニ釣り

午後からは海辺の河口へと移動し、貝類に詳しい客員講師の児嶋格さんにも参加してもらい、生きもの採集です。潮のひきがあまり良くなく、しかも最干潮の時刻が過ぎていましたので、徐々に潮が差してくる中でしたが、1時間余りの採集で参加者全員の捕まえた生きものを集めるとそこそこの種数が集まりました。

貝はボランティアスタッフの鈴子佐幸さんが、テトラポッドにはりついて採集してくれたこともあり、18種類の生貝が確認されました。魚はボランティアスタッフの三宅壽一さんの奮闘もあり、タモ網採集で7種類が集まりました。スーパーで“ねぶと”として売られているテンジクダイが近木川河口で初採集されましたが、この種は普通、浅海の砂泥底に生息し、底びき網で多く漁獲されます。

また、前浜側でのカニは、礫をめくってみると多くのケフサイソガニや、タカノケフサイソガニ、ヒライソガニが、波打ち際ではワタリガニの仲間のタイワンガザミやイシガニが見つかりました。泥でぬかるんだ場所では、ヤマトオサガニも採集されていました。



採集した生物を解説する児嶋先生

近木川河口(前浜)の生きもの観察会 20100920

グループ		和名
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ科
	腹足綱	ユメガカサガイ科
		ユキノカサガイ科
		ニシキウスガイ科
		アマオブネガイ科
		タマキビ科
		タマガイ科
		ハナゴウナ科
		アツキガイ科
		ムシロガイ科
		リンゴガイ科
環形動物門	二枚貝綱	フネガイ科
		イガイ科
		イタボガキ科
		ネドリマスオ科
		マルスタレガイ科
		ニッコウガイ科
		イワホリガイ科
		クチベニガイ科
環形動物門	多毛綱	ゴカイ科
		オオテイルメ科
		イソメ科
	貧毛綱	フトミミズ科
節足動物門	顎脚綱	ミウマガイ科
		フジツボ科
	軟甲綱	ホンヤドカリ科
		ガザミ科
		モクスガニ科
		スナガニ科
棘皮動物門	オマコ綱	イカリナマコ科
脊索動物門	硬骨魚綱	ゴンズイ科
		ハオコゼ科
		テンジクダイ科
		シマイサキ科
		ハゼ科

凡例 D: 打ち上げの死骸のみ



近木川河口で採集されたテンジクダイ

(山田 浩二)

【参加者の感想】

「クラブ課外活動」を通じて伝えたいこと

大阪女子高校生物同好会は、平成 22 年 4 月 1 日に正式に発足しました。本同好会の趣旨は、自然体験活動を通じて、心身共に調和のとれた豊かな人間性を目指すことです。クラブを通じて「生命とは何か？」をもう一度見つめて、考えて欲しく設立しました。したがって、本同好会の主たる活動は「体験」を中心としています。そのため、生徒(部員)は、いろいろな地域に出かけ、フィールドワークを行っています。定点観測も重要ですが、いろんな場所(溪流・上流・下流など)に出かけ、そこに住む生物の多様性を知ることにより、他を受け入れる教養力を身につけて、世に役立つ社会人に成長してほしいのです。今回は、貝塚市自然遊学館主催の「近木川河口の生き物調べ」があるということを知り、参加することにしました。

本同好会にとって、岸和田・貝塚エリアの池・河川を調査対象とすることはありませんでした。「近木川河口」をフィールドワークすることは始めてです。顧問をはじめ、4名の部員は、前々まで会議を重ねました。会議では、「クラブとして網やバケツを持参し、文化祭の展示発表に生かそう」・「集合時刻より早く行き、クラブとして近木川を調査しよう」など、的を射た意見から、「採取した生き物を淡水魚と一緒に飼育できないだろうか？」など奇想天外な意見がでました。結果、何がともあれ、南海貝塚駅に早めに集合し、近木川など地誌をフィールドワークしながら、自然遊学館に向かうこ

とにしました。

午前 9 時、南海貝塚駅に個人で申し込んだ 5 名が集合しました。大阪市内は、小雨が降っていたが、貝塚市内は太陽がコンクリートを照りつけていた。嬉しさのあまり、徒歩で「自然遊学館」を目指しました。

午前 10 時、「自然遊学館」に到着。“近木川河口のカニ釣り”では、顧問を含め、近木川河口の豊かな大自然？を満喫した。“タクアン”でカニが釣れるとは、驚きを隠せなかった。カニ釣りでは、クロベンケイガニなどを釣ることができました。

二色浜で昼食を食べた後、前浜干潟で生きもの探しをしました。干潟では、普段、淡水では見ることのできない珍しい魚や、そこに住む多くの生き物を観察することができました。その後、「自然遊学館」の展示をみて、帰路につきました。

最後に、楽しい時間を作ってくれた「自然遊学館」さんにお礼を申し上げるとともに、これからも、よろしく願います。

(大阪女子高校生物同好会顧問 三好高志)

も受け付けるという方法に変更しました。以下に今年の相談内容を日付順に書きました。

- ・キジバトの巣の観察
- ・二色運河に仕掛けるカニカゴ
- ・和歌山の貝とカニ
- ・川の魚
- ・磯の生きもの調べ
- ・ハチの巣
- ・近木川河口の生きもの調べ
- ・木積の地層
- ・セミ
- ・アリの好き嫌い
- ・タマムシの標本作成
- ・市民の森周辺の昆虫
- ・二色の浜の植物

(湯浅 幸子・岩崎 拓)

## ◆生きものよみもの

### オオスナゴミムシダマシ

5月8日、二色の浜海浜植物調査の時に、西澤昴竜さんとコウボウムギの根際に体長約 1cm のゴミムシダマシがたくさんいるのを見つけました。大学院時代の先輩の池内健さんに聞くと、オオスナゴミムシダマシで海浜性の種だと教えてもらいました。

5月15日、渚の生きもの行事の時にも大量にいたので、180匹の成虫を採集し、どれくらい生きるのか、何を食べるのか調べることにしました。それにしても個体数が

## 夏休み自由研究相談 2010

今年も夏休み期間を通して、自由研究相談を受け付けました。開館当初から数年は夏休みの終わりに各専門分野の先生にお越しいただき、同定会を開いていました。しかし、分野ごとに相談者の人数にばらつきが出てしまうのと、どの分野が多いかが年によってまちまちであらかじめ予想できなかったもので、今のような夏休み中にいつで

多く、二色の浜全体では1万～10万の単位で生息しているものと推測されました。



図1. オオスナゴミムシダマシ

コウボウムギやコマツヨイグサなどの植物の根際にて、砂に潜っている個体もいます。でも深く掘っても見つからず、体がぎりぎり埋まる程度に潜るようです。二色の浜の砂を容器に入れて、どれくらいの速さで潜るのかを調べると、最速の個体で約5分でした（図1）。

以下に提示した餌と摂食の有無を示しました。結局、好き嫌いは少しあるものの、海浜植物、海草、海藻、それ以外の植物、枯草、コオロギ死体、キノコなど、ほとんど何でも食べる雑食者であることが分かりました。また、5月15日に採集した成虫は、室温で飼育して最長で7月17日まで生きました（個体数が半減したのは6月24日）。

### 食べ物リスト

海浜植物：ハマボウフウ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、ツルナ、ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマウド、コウボウシバ、コウボウムギ

海草：アマモ

海藻：アナアオサ

それ以外の植物：コメツブウマゴヤシ、シロバナシナガワハギ、ヨモギ、アレチマツヨイグサ、コマツヨイグサ、ミカン、リンゴ（実）、クヌギ、ナンキンハゼ、エノキ、クワ、クズ、アレチヌスビトハギ、マルバハギ、フジ、ドクダミ

その他：枯草（二色の浜で拾ったもの）、コオロギ死体、アマタケ（菌類）

彼らはどうして海浜にだけ生息するのでしょうか。海浜植物だけでなく内陸の植物も食べることで、さらに雑食性であることから、餌が理由ではないことは確かです。砂に潜る習性から海浜を選んでいるのかもしれないし、あるいは内陸には競争相手がいるからかもしれません。結局、飼育している間に、交尾と産卵を1回も観察せずに終わりました。彼らの生活史を知るために、来年はもう少し丁寧に飼育しようと考えています。

（岩崎 拓）

### カミキリムシは なぜ触角が長いのか？

カミキリムシを見たことがあるでしょうか。害虫扱いされることも多いですが、大型のものも多く、形のよい昆虫です。ところでカミキリムシはなぜこんなに長くて丈夫な触角をもっているのでしょうか（図1）。同じ昆虫でも、キリギリスやゴキブリも触



角が長いですが、甲虫でここまで触角が長いのは他に見当たりません。秘密はカミキリムシの生息場所と雌雄の出会い方にあると考えました。



図1. シロスジカミキリ

カミキリムシは、一般的に木の幹や葉の上などを生息場所としています。多くの種は植物の表面を傷つけ、そこから染み出る汁を餌にし、雌は木の幹などに直接産卵します。そんな木の幹や葉の上といった広い場所で交尾相手を見つけるのは大変です。カブトムシやクワガタムシは樹液の出た場所に集まるので、餌場での出会いが期待できます。セミやコオロギはある程度広い空間でも鳴き声で相手に居場所を知らせることができます。ところがカミキリムシは餌場に集まるわけでもなく、鳴き声を発することもありません。そこでカミキリムシはそのような広い場所でも雌雄が出会えるような戦略をとりました。

カミキリムシは広い樹上や葉の上でも歩き回りやすいような長い足をしています。大きく長い触角を振りかざしながらせわしく歩き回ります(図2)。また目は大きいですが視力はそんなに良くなく、明るさを判別できる程度だといわれています。広い場所でも雄と雌が出会えるように、雌はフェロモンを使って雄に居場所を教えます。

そして接近した雄と雌の長い触角が偶然触れ合うことで、同じ種のカミキリムシであることが認識されます。カミキリムシは広い場所でも確実に交尾相手と出会えるように長い触角を手に入れたのではないかと、思います。



図2. キボシカミキリ

自然遊学館のカミキリムシ標本を整理しながら、長い触角についていろいろと考えてみました。以下に自然遊学館が所蔵している貝塚産カミキリムシ科 62 種のリストを掲載しました(表1)。

表1. 自然遊学館が所蔵している  
貝塚産カミキリムシ科のリスト

ホソカミキリ亜科  
ホソカミキリ

ノコギリカミキリ亜科  
ノコギリカミキリ  
ウスバカミキリ  
ニセノコギリカミキリ

クロカミキリ亜科  
オオクロカミキリ  
ヒメマルクビヒラタカミキリ  
クロカミキリ  
ツシムムナクボカミキリ  
ムナクボカミキリ

ハナカミキリ亜科

- ヘリグロホソハナカミキリ
- アカハナカミキリ
- マルガタハナカミキリ
- ヨツスジハナカミキリ
- オオヨツスジハナカミキリ
- ミヤマホソハナカミキリ

カミキリ亜科

- キマダラヤマカミキリ
- ミヤマカミキリ
- ヨツキボシカミキリ
- カッコウメダカカミキリ
- ヒメスギカミキリ
- ウスイロトラカミキリ
- エグリトラカミキリ
- タケトラカミキリ
- クロトラカミキリ
- ヨツスジトラカミキリ
- トゲヒゲトラカミキリ
- キイロトラカミキリ
- シロトラカミキリ
- ベニカミキリ
- ヘリグロベニカミキリ

フトカミキリ亜科

- シロオビゴマフカミキリ
- ナガゴマフカミキリ
- カタシロゴマフカミキリ
- キクスイモドキカミキリ
- ハイロヤハズカミキリ
- エゾサビカミキリ
- アトモンサビカミキリ
- ナカジロサビカミキリ
- キボシカミキリ
- ゴマダラカミキリ
- イタヤカミキリ
- ヒメヒゲナガカミキリ
- ヨコヤマヒゲナガカミキリ
- ビロウドカミキリ
- センノカミキリ
- ニセビロウドカミキリ
- ヒゲナガゴマフカミキリ
- クワカミキリ
- シロスジカミキリ
- ヒトオビアラゲカミキリ
- ガロアケシカミキリ
- アトモンマルケシカミキリ
- ヤツメカミキリ
- ニセシラホシカミキリ
- ラミーカミキリ
- シラホシカミキリ
- ヘリグロリンゴカミキリ
- リンゴカミキリ
- ニセリンゴカミキリ
- ホソキリンゴカミキリ
- ソボリンゴカミキリ
- キクスイカミキリ

2003年に創館10周年を記念して発行した貝塚市の動植物リストでは、カミキリムシ科は37種だったので、その後の調査で25種増えたこととなります。

(岡田 恵太郎)

◆ 泉州生きもの歳時記

ヒモイカリナマコツマミガイの  
近木川河口での記録

今号の行事レポートで紹介しました9月20日の「近木川河口の生きものと遊ぼう！」の際に、巻貝であるヒモイカリナマコツマミガイ *Hypermastus lacteus* (ハナゴウナ科) が6個体採集されましたので、ここで取り上げます。この貝はその和名の通り、干潟に生息するヒモイカリナマコ(イカリナマコ科)に内部寄生しており、殻長数mmと小さく白色半透明で、胎殻(殻頂部)がつまみ状に突出しています(図1)。

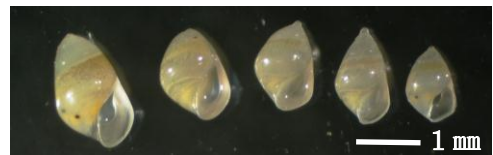


図1. ヒモイカリナマコツマミガイ  
(近木川河口、2010年9月20日)

宿主であるヒモイカリナマコ（図 2）はこれまで近木川河口では散発的に数個体が採集されていましたが、昨年 9 月 5 日に近木川河口で行われた観察会では、高密度に多数見つかりました。そのうち 50 個体を調べてみましたが、ヒモイカリナマコツマミガイは確認できませんでした（山田、2009）。今回、ヒモイカリナマコは採集されていないなあと思っていたら、小学 5 年生の江本大地さんが「これ何？」と差し出してくれたのは、容器にたくさん入ったヒモイカリナマコでした。そして、そのうち 1 匹を手に取り、じっくりと見ると体内にヒモイカリナマコツマミガイがいるのが、透けて見えました。



図 2. ヒモイカリナマコ

結局、採集されたヒモイカリナマコ 27 個体中、ヒモイカリナマコツマミガイが寄生していたのは 2 個体のみで（寄生率 7.4%）、そのうち 1 個体には 4 個体のヒモイカリナマコツマミガイが、もう 1 個体には 2 個体のヒモイカリナマコツマミガイが内部寄生していました。これら 6 個体の本種の殻長を測定すると、それぞれ 1.8mm、1.8mm、1.6mm、1.5mm、1.4mm、1.2mm でしたが（図 1）、成長すると 5mm 程度になるようです。

本種の国内における生息状況は、和田ほか（1996）によると、近年は宿主であるヒ

モイカリナマコが激減したため、本種もほとんどみられなくなったと述べられ、絶滅に向けて進行しているとみなされる「危険」に宿主とも評価されています。しかし、昨年から近木川や男里川の河口において、顕著に思われたヒモイカリナマコの生息数の増加や、男里川でもヒモイカリナマコツマミガイが採集されている（山田、2009）事例は、一過性にすぎないのか、今後の生息状況を見守りたいと思います。

#### 引用文献

山田浩二（2009）近木川河口カニ釣り&生きもの調べ. 自然遊学館だより, No. 53 : 5-7.

和田恵次ほか（1996）日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182pp.

（山田 浩二）

## ◆館長コーナー

### 秋 6. イノシシ

食欲の秋になりました。猛暑の中でも少し朝夕涼しくなりますと、自然は敏感です。虫の音は次第に大きく、鳥はせわしく餌を求め、大型の獣たちはさらに大量の獲物を得ようと活動します。

私の生活からの報告で申し訳ありませんが、「最近イノシシ事情」を報告致します。

今年は例年に増してイノシシの被害を受けているからです。私は 40 アールほどの耕地に、米を 12 アール、野菜を 18 アール、残りを空地にしています。山間部の田畑で

すから、獣、虫、鳥などから甚大な被害を受けるのです。

だから、田畑の一番外側に工事用の仕切り鉄板を並べ、各田や畑の周りにはゴルフ用の網、そのまた回りにバッテリーの電柵をつけています。また、空からの攻撃に備えて、防鳥網を張り巡らせているのです。大変な労力と費用がかかります。たった1つのメリットのためにそうしているのです。それは、「おいしい野菜」を作るといことです。湧き水の力で得た自然味たっぷりの作物を作りたいからです。

しかし、大抵は挫折です。枝豆やトマト、トウモロコシなどはほとんど収穫できません。思いがけない敵がいるからです。ネズミから作物を守る手法にまだ成功していないからです。先ほど記しました重厚なバリケードをしても今年はサツマイモ 500 キログラム収穫予定が 15 キログラムしか採れませんでした。イノシシのせいなのです。一夜にして第一芋畑の芋を完食されてしまいました。それから第二芋畑が狙われると思っていたのですが、それ以降1ヶ月ほど現れませんでした。第一を食べつくしたイノシシは一夜にして体重が倍くらいに増えたのできっとその重みで谷を降りるときに骨折し、死んでしまったのでしょう。

ところが今度は新手が現れたのです。田畑の柵をしていない空地のところを掘り返してミミズや虫の幼虫を狙いはじめました。猛暑の頃です。あまり激しく掘り返すので工事用仕切り板の破損を調べました。鉄板が錆びたところに直径 15 センチメートルくらいの穴をあけてあるのです。しっかり穴をつめました。今度は川の方をトラクタ

ーが耕運したように空地をかき回しています。仕方ないので川のほうを1日ばかりで修理しました。もう大丈夫だろうと思っていましたが、なかなかどうして竹や草木が覆い茂って夏場では作業できないところを狙ったのです。見事に通路になっていましたが、それを塞ぐことは不可能です。

そうこうしているうちにまず作物のサトイモを食べ始めました。まるで大切な食料を計算して食べるような仕業です。1日5,6株、多いときには20株を順に食べていくのです。サトイモがなくなるとサツマイモです。第一芋畑に最初荒らされたところに2株残っていたのですが、それを食べて、おいしかったのでしょう。第二芋畑を食べ始めました。あくる日、少し早く畑に行きますと少年から青年になりかけのつくきヤツが2頭おいしそうにサツマイモを食べているではありませんか。手にしていたクワで追い払うと、名残ほしそうに去って行きました。極めて暑い夏でしたが仕方なくまだ指先ほどにしか入っていない第二芋畑を掘ることにしました。それが今年の全収穫15キログラムだったのです。そのあくる日からは稲を食べ始めました。これも仕方なく刈り取りしました。しかし、ダテかけの穂をきつと狙うと思っていた通り引きづり下ろした稲わらがまわり一面一杯になりました。



イノシシの足跡



広範囲に荒らされた跡



括っていた藁を散乱させた



小松菜発芽の上の足跡

このような報告をいくら聞いても面白くありません。私の言いたいのは、被害を受けたことを報告しているのではなく、親から離れたイノシシがきょうだいと共に1日1日成長していることを報告したいのです。味の知らなかった稲穂まで思考錯誤の繰り返し

返して覚えていくのです。それが、自分の体作りをしなければならない夏場は、動物性タンパク質を求め、秋風が漂うと脂肪に変わる炭水化物を求めるようになるのです。サトイモやサツマイモ、米などは秋から冬にかけての最高の食べ物になっていくのです。

だから、私は早場米の「はえぬき」という品種を選び、イノシシの食欲のタイミングをはずそうとしてきたのです。

時には、イノシシと知恵比べになることがあります。イノシシは作物を盗ります。そのイノシシを追っかけて私は知恵を磨きます。おあいこでしょうか。



かなり成長したワケギの最後



電柵と電柵内外の様子

(川村 甚吉)

## ◆調査速報

### 和泉葛城山昆虫調査

(2010年7月～9月)

#### 7月20日、和泉葛城山昆虫調査

山頂付近も、日向では下界と同じく暑いのですが、ブナ林の中に入ると涼しい風が吹いています。カッコウの鳴き声が出迎えてくれました。セミの種類も増えて、ハルゼミ、エゾゼミ、ニイニイセミ、ヒグラシの声が聞こえます。弱ったエゾゼミだけ標本にすることにしました。

バッタ目では、ヒトコブササキリモドキの雌雄の写真を撮れたのが収穫でした。昨年は採集はしたものの写真を撮る機会を逸してしまいました。オスの交尾器(把握器)が栓抜きのような形をしているのが特徴的です(図1)。大阪府内では泉南に分布が限られていて、大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧に指定されています。



図1. ヒトコブササキリモドキ (♂)

6月よりも種数が増えたのは、主に甲虫の種数が増えたからです。ウスイロトラカミキリやオオクロカミキリなどのカミキリ

ムシが目立つようになりました。その中でマルガタハナカミキリは、自然遊学館の調査としては、1993年以降の確認となりました(図2)。



図2. マルガタハナカミキリ

他に自然遊学館が所蔵していないものとして、ヒメキマダラコメツキ、モンサビカッコウムシ、オオマルハナバチ、アオスジハナバチなどを採集しました。

#### 8月19日、和泉葛城山昆虫調査

下界は連日の暑さが続いています。今年の夏の暑さは格別です。標高858mの山頂付近でも日向では中々の暑さですが、日陰に入ると「少し」涼しい風が吹いています。ブナ林にすむヒトコブササキリモドキは7月に続いて写真を撮ることが出来ました。その他、キリギリス類で、小さい声で鳴いているものがあるのですが、自分には聞き分ける力がありません。

空中では、チョウやトンボが多く飛んでいて賑やかです。チョウでは7月に続いてサツマジミを1匹採集しました。その他、カラスアゲハ、モンキアゲハ、ジャノメチョウ、クロヒカゲ、アサギマダラなどを確

認しました。カラスアゲハは、山頂の神社でヒメカバイロタケというキノコを撮影している時に、悠々と目の前を旋回して行きました。悠々と・・・、こちらが採集する気が無い時には、悠々と美しい翅をじっくり見せてくれるのが不思議です。

トンボではミヤマアカネの写真を撮影できました(図3)。翅の先から少し内側に褐色の帯があるのが特徴で、貝塚市内では10月に木積の水田で比較的多く確認されています。



図3. ミヤマアカネ(♀)

セミでは、エゾゼミ、ミンミンゼミ、ニイニゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、チッチゼミの6種の鳴き声が聞こえました。昨年の8月の調査時には3種だったので、何かを言うには、もう少しデータを蓄積する必要があります。

調査中に煩わしかったのは、ウシアブが盛んにスキンシップを図ってくることです。奴らは黒の三菱コルトも大好きなようで、おそらく「大きな牛だ」と喚起しつつ車体にぶつかって、「なんじゃこりゃ」と叫んでいるのでしょう。単なる空想ですが。

他に自然遊学館が所蔵していないものと

して、キイロホソネスイ、シモフリシマバエ、アリバチモドキ、ヤドリベッコウなどを採集しました。

#### 9月16日、和泉葛城山昆虫調査

朝方に雨が降ったので、午後からの調査にしました。猛暑もようやくおさまりました。山頂でもウスバキトンボが飛び交う日向はやや暑いものの、ブナ林の中には心地よい風が吹いています。セミはツクツクボウシとチッチゼミの2種に減り、鳴く虫はセミからキリギリス・コオロギの仲間にはバトンタッチです。そんな中、今年もヒメクサキリを確認することができました。



図4. カタモンオオキノコ



図5. キノコヒゲナガゾウムシ

図4と図5は、ウメノキゴケ（地衣類）に来ていたカタモンオオキノコとキノコヒゲナガゾウムシです。カタモンオオキノコは自然遊学館に標本がなかったものです。その他、ホソアトキリゴミムシとツマジロウツギハバチが初顔でした。

(岩崎 拓)



カンムリセスジゲンゴロウ

## ◆投稿

### カンムリセスジゲンゴロウ

自然生態園「トンボの池」(貝塚市二色)で昨年6月(2009年6月13日)に全国的にも採集例が少ないムモンチビコツブゲンゴロウが見つかりました(本誌52号;森本, 2010)。今年も6月12日の池さらえの時に見つかりましたが、この池にいつもいるのか、どこかからやってくるのか気になっています。7月10日にもアメリカザリガニの駆除を兼ねてムモンチビコツブゲンゴロウがいるかどうか調査をしました。

今回、目当てのムモンチビコツブゲンゴロウは見つかりませんでした。この時期にはいつもいるハイイロゲンゴロウや小さいゲンゴロウたち(チビゲンゴロウ、チャイロチビゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ)に交じって少し大きめで4ミリほどのきれいなゲンゴロウがいました。これが何かすぐには見当がつかなくて、わくわくしながら実体顕微鏡をのぞくとなんと、カンムリセスジゲンゴロウ! トンボの池では9種目のゲンゴロウです。

このゲンゴロウは、普通、水たまりのような不安定な水域にいます。南大阪では泉佐野市檜井川流域の林道沿いの幾つかの水たまりで採集したことがあります(森本, 2010)、池でみたのは初めてです。トンボの池はゲンゴロウにとっても魅力のある池ではないでしょうか。これからどんなゲンゴロウがやってくるか楽しみです。

#### 引用文献

森本静子(2010)大阪府南部のゲンゴロウ類調査。  
兵庫陸水生物、No. 61-62: 107-111.

(自然遊学館わくわくクラブ 森本 静子)

### ハネビロトンボ

#### ー トンボの池に23種目のトンボ ー

9月11日の生態園作業のときにトンボの池(貝塚市二色市民の森)で23種目となるハネビロトンボのヤゴがなんと32匹も見つかりました。自然遊学館の記録では、貝塚市で74種目になります。2003年に創館10周年を記念して発行した動植物リスト<sup>1)</sup>



ではトンボ目が73種だったので、それから1種増えるのに7年かかりました。



ハネビロトンボ幼虫

実をいうとこの日の生態園作業の時間を間違えて早く行ったので池の縁からタモ網でアオミドロの間に見え隠れするメダカを掬っていました。水面をさっと掬うとアオミドロと一緒に2匹、3匹とヤゴが入ってきました。ひと目でこれまで見たことがないヤゴだと思いました。ドキドキしながらトンボの検索表で調べたところ、本州では偶産種のハネビロトンボにたどり着きました。

幼虫だけの同定では不安なので、岩崎さんが一部の幼虫を飼育し羽化させてくださいました。その結果は、9月15日・2♀羽化、9月16日・1♀羽化、9月19日・1♂羽化、9月20日・1♂羽化でした。また、トンボの池でも9月24日以降、羽化殻を確認しました。



ハネビロトンボ♀

ハネビロトンボは台湾、中国中部、香港、タイ、ビルマなど東南アジアの北よりの地域に広く分布していて、日本では確実に定着しているのは福岡県大牟田市、高知市以南です。<sup>2)・3)</sup>、今回、トンボの池で見つかったのは一時的に繁殖したもので定着したものではないと考えられます。ヤゴは少し大きめで背棘はなく腹部第8節と9節の側棘がとても長くて平べったい感じです。成虫は名前のおり後翅の幅が広く、基部に濃い黒褐色斑がありウスバキトンボより一回り大きいトンボです。

成虫は大阪でも飛来したものがよく見られますが、幼虫の記録は少ないので、トンボの池で産卵、羽化というのは重要な記録になるのではないのでしょうか。

また私にとっても、初めてヤゴを掬いあげた時の“これ何っ”という驚きと羽化してきれいなトンボになった時の嬉しさは忘れられないものになりました。

1) 井上清・松田勲(2003)貝塚市のトンボ. 貝塚の自然—貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号—. pp. 1-27.

- 2) 石田勝義 (1996) 「日本産トンボ目幼虫検索図説」、pp. 447, 北海道大学図書刊行会.
- 3) 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊 (1988) 「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」、pp. 140, 東海大学出版会.

(自然遊学館わくわくクラブ 森本 静子)

## ◆学芸員実習生の調べた 貝塚の自然

博物館学芸員資格の取得に向け、当館で10日間の実習を行っている大学生達が、貝塚の自然を対象に自由に興味のあるテーマを決めて、調査活動を行いました。ここではタイトルと簡単な内容のみを掲載しますが、館内で全文の書かれたレポートを閲覧できます。

### 『トンボの池におけるトンボマーキング』

近畿大学農学部農業生産学科 白銀健太郎  
トンボの翅にマジックペンで番号を書き、再捕獲されたトンボの数で、行動範囲を調べた。

### 『近木川河口に生息するヨコエビ』

近畿大学農学部水産学科 谷崎茉莉子  
3地点でヨコエビを定量採集し、種類と個体数を調べ、底質との関係を調べた。

### 『近木川河口右岸に生息している植物』

近畿大学農学部バイオサイエンス学科 奥田利美  
海浜の植物相を調査し、在来海浜植物と帰化植物との分布を比較した。

### 『近木川河口におけるスナガニ属調査』

近畿大学農学部バイオサイエンス学科 深見知可  
砂浜のカニの巣穴数をカウントし、掘って採集すると、ツノメガニがいることを確認した。

### 『近木川河口での地曳網調査』

近畿大学農学部水産学科 轟 広大  
近木川河口で7月と9月に地曳網を行った際に採集された魚類を記録し、紹介した。

### 『岩石の展示物の分類』

愛媛大学理学部地球科学科 林 晃平  
館に展示している岩石について、より来館者に分かりやすくするため、説明文に手を加えた。

### 『二色の浜の海浜植物』

大阪府立大学生命環境科学部 今井健太  
二色の浜の海浜植物のおおまかな分布状況と、砂浜付近における優勢種の根の形態を確認した。

(山田 浩二)

## ◆寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2010年9月分まで)

### <鉱石>

#### ◆川崎勇さんより

スパー石

1985年頃 岡山県備中産

### <哺乳類>

- ◆吉川優毅さんより  
コウベモグラ 死体1点  
貝塚市木積 2010年7月5日採集
- ◆文野節夫さんより  
ニホンリス 死体1点  
貝塚市木積 2010年9月29日採集

### <鳥類>

- ◆山口フミ子さんより  
イカル 死体1点  
貝塚市大川 2010年5月採集
- ◆用松春也さんより  
カワラヒワ 巢1点  
貝塚市二色 2010年6月25日採集
- ◆南あきはさんより  
カワラヒワ 死体1点  
貝塚市畠中 2010年9月12日採集

### <爬虫類>

- ◆岩井康洋さんより  
ヤモリ 生体1点  
貝塚市二色 2010年8月19日採集
- ◆大阪府港湾局阪南港湾事務所より  
アカウミガメ 死卵6個  
泉南市サザンビーチ  
2010年9月10日採集

### <両生類>

- ◆児嶋格さんより  
コガタブチサンショウウオ 生体1点  
貝塚市蓄原 2010年6月22日採集
- ◆植田虎太郎さんより  
アマガエル 生体3点  
(うち1点は体色が黄色)

和歌山県岩出町 2010年7月15日  
(採集者: 植田貴之さん)

### <魚類>

- ◆黒木夏彦さんより  
ツバメコノシロ 生体1点 (図1)  
貝塚港 2010年8月21日採集



図1. ツバメコノシロ (全長11.5cm)

- ◆小川武士さんより  
・タカハヤ 生体10点  
京都府瑞穂町由良川  
2010年3月採集
- ・カワアナゴ 生体1点  
近木川下流新井井堰  
2010年8月27日採集
- ◆三宅壽一さんより  
ガンテンイシヨウジ 生体1点  
テンジクスズメダイ 生体1点  
せんなん里海公園人工磯  
2010年8月26日採集
- ◆黒岩直美さんより  
ソウシハギ 1点  
近木川河口 2010年8月26日採集
- ◆秋丸涼太郎さんより  
キュウセン 生体1点  
貝塚市二色海浜緑地地先  
2010年8月29日採集

◆シニア自然大学森と海の自然科より

テンジクダツ属 生体 2点

ヒガンフグ 生体 1点

近木川河口 2010年9月2日採集

◆食野俊男さんより

・オニオコゼ 生体 1点

貝塚市二色海浜緑地地先

2010年9月10日採集

・チワラスボ 生体 1点

近木川河口 2010年9月10日

(採集者：行長正勝さん)

・コンゴウフグ 生体 1点

貝塚市二色海浜緑地地先 2010年9月17日

(採集者：黒岩直美さん)

・コンゴウフグ 生体 1点

貝塚市二色の浜 2010年9月18日

◆シニア自然大学より

テンジクダツ 生体 1点

せんなん里海公園人工磯

2010年9月11日採集

<軟体動物>

◆覚野信行さんより

スガイ 生体 2点

岬町落合川河口 2010年8月7日採集

◆鈴子佐幸さんより

ブドウガイ 1点

岸和田市阪南二区人工干潟

2010年7月10日採集

◆岸和田市立光陽中学校科学クラブより

マルウズラタマキビ 生体 2点

貝塚市津田川河口

2010年7月23日採集

<甲殻類>

◆覚野信行さんより

・タカノケフサイソガニ 2点

大阪市矢倉海岸 2010年8月8日採集

・タカノケフサイソガニ 15点

岸和田市春木川河口 2010年9月4日採集

・ケフサイソガニ 15点

岬町落合川河口 2010年9月5日採集

◆秋丸涼太郎さんより

アシナガスジエビ 生体 1点

貝塚市二色海浜緑地地先

2010年8月28日採集

<棘皮動物>

◆濱谷巖さんより

コブヒトデ 1点

鹿児島県奄美大島名瀬

1959年8月採集

◆食野俊男さんより

ヒラタブンブク 生体 1点 (図2)

貝塚市二色の浜

2010年9月18日 黒岩直美さん採集



図2. ヒラタブンブク

<昆虫>

◆濱谷巖さんより

リュウキュウアサギマダラ 1点

- 鹿児島県与論島 1975年5月26日採集  
ほか39点
- ◆川口博さんより  
ゴマダラカミキリ 成虫1点  
貝塚市二色 2010年6月19日採集  
タムムシ 成虫1点  
和歌山県有田川町  
2010年8月22日採集
- ◆溝端孝史さんより  
ヒラズゲンセイ 成虫1点  
泉佐野市日根野 2010年6月17日  
(採集者：神藤龍平さん)
- ◆児嶋格さんより  
クロバネキノコバエ科の一種 成虫2点  
和泉葛城山 2010年6月15日採集
- ◆西尾吉信さんより  
ギンヤンマ 幼虫2点  
マイコアカネ 幼虫1点  
熊取町 2010年7月6日採集
- ◆五藤武史さんより  
和泉葛城山産のオトシブミ類 計14点  
ヒメコブオトシブミ 成虫3点  
ヒメゴマダラオトシブミ 成虫4点  
オトシブミ 成虫1点  
エゴツルクビオトシブミ 成虫5点  
6月2日～6月11日揺籃採集  
6月24日～7月8日羽化  
カシルリオトシブミ 成虫1点  
6月28日採集  
ムラサキツバメ 成虫1点  
堺市鉢ヶ峯寺町 2010年8月1日採集  
トラフシジミ 成虫1点  
和泉葛城山 2010年8月4日採集  
ムラサキツバメ 成虫2点  
堺市鉢ヶ峯寺町 2010年8月19日採集
- ◆鈴子晴久さんより  
コクワガタ 成虫1点  
貝塚市二色 2010年7月25日採集
- ◆石井翔生愛さんより  
ヒラタクワガタ 成虫1点  
貝塚市橋本 2009年7月採集  
ヒラフシアリ 成虫多数  
クサオオアリ 成虫3点  
貝塚市堤 2010年7月25日採集
- ◆佐々木仁さんより  
コブマルエンマコガネ 成虫1点  
貝塚市脇浜 2010年8月5日採集
- ◆岩井康洋さんより  
オオフタオビドロバチ 成虫1点  
貝塚市二色 2010年8月6日採集  
ミンミンゼミ 成虫1点  
ナカグロクチバ 成虫1点  
貝塚市二色 2010年9月2日採集
- ◆久保元嗣さんより  
ノコギリクワガタ 成虫1点  
ミヤマクワガタ 成虫1点  
大阪府立少年自然の家(貝塚市)  
2010年8月15日採集
- ◆吉川優毅さんより  
クロマドボタル 幼虫1点  
貝塚市木積 2010年8月21日採集
- ◆中谷憲一さんより  
ハナカマキリ 成虫1点  
カレハカマキリ 成虫2点  
飼育品
- <クモ>
- ◆金貴信・百々敦大・松本旅人・松本光平・  
庄司航太さんより  
セアカゴケグモ 死体1点

貝塚市二色 2010年9月25日採集

### <菌類>

#### ◆児嶋格さんより

クロサルノコシカケ 2点

和泉葛城山 2010年6月15日採集

#### ◆岩井康洋さんより

キチャハツ 3点

オオシロカラカサタケ 1点

貝塚市二色 2010年7月15日採集

### <写真>

#### ◆相原まさはるさんより

シオマネキ ♂1点

近木川河口 2010年7月28日撮影

#### ◆食野俊男さんより

ソリハシシギ 1点

近木川河口 2010年8月28日撮影

### 謝辞

同定にご協力頂きました大阪府水産技術センターの日下部敬之氏、鍋島靖信氏、和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏、大阪市立自然史博物館の和田岳氏にお礼申し上げます。

## ◆スタッフ日誌

7月25日、満月の夜の海探険に今年の学芸員実習生やボランティアの人が、補助スタッフとして来てくださったので、トラブルもなく終えることが出来ました。ありがとうございました。(鈴)

8月23日、最近、遊学館の建物の外回り、特に窓周辺にクモの巣がやたらと目立ちます。犯人を突き止めるとクロガケジグモでした。(岩)

9月9日、昨日から連続で貝塚市立第四中学校2年生の生徒3人が職業体験に来ました。学芸員実習で来ている大学生のお兄さん2人と力を合わせ、水槽の掃除をしたり、カニ釣り会場となる近木川河口のゴミ拾いやヨシ刈りなどを行いました。(浩)

\* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2010 秋号 (No. 57)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2010.10.29

この小冊子は市内印刷で作成しています。